



演劇やラジオで笑いを届ける

聲高 資子さん

◆こえだかもとこ 高齢者施設などで演劇や漫才を披露するボランティア団体「サークル風」代表。パーソナリティを務めるFMひらかたの番組「シルバー三銃士」は近畿コミュニティ放送賞で優秀賞を受賞した。山之上北町在住。81歳。

「もうすぐ人生100年時代。チャンスがあればもっと挑戦したいんです」。80歳を超えてなお、意欲は増す一方だ。昨年10月にはFMひらかたでラジオパーソナリティデビュー。毎週水曜放送の生番組「シルバー三銃士」で月1回、「優もと子」の名で2時間しゃべり続ける。「FMの方からぜひって。自信がなくて最初は断ったんです」。それでも誘われ続けるうち、旺盛な好奇心に火がついた。無音が許されない世界でどうしたらいいのかわからなかったが、演劇の発声練習で使う早口言葉を連発したり、他の出演者と俳句に挑戦する大喜利をやってみたり。「秒単位でトークをつなぐのが本当に難しくて」。リスナーからの「元気をもらった」の声が新たなやりがいになった。印象的なのはトークの合間の明るい笑い声。「笑うって、心と身体に本当に良いんですよ」。

代表を務めるサークルでは大好きな松竹新喜劇を

参考に、脚本作りから演技指導まで、笑いあり涙ありの人情喜劇を自ら手掛ける。「すべて独学。みんなを笑顔にしたいという気持ちだけです」。明るく前向きな性格でメンバー18人との練習はいつも笑いが絶えない。サークルを立ち上げたのは68歳。最初の3年間は全く人が集まらず苦しかったが、「辞めようなんて全然思わなかった」。舞台に立って観客を笑わせている場面を思い浮かべるだけで「もう楽しくて」。だからこそ、発足4年後の旗揚げ公演では感極まって号泣した。

マルチな活動を続けるためには「健康が第一」と、週2回エアロビクスで汗を流す。そして何よりも、楽しく生きていこうという気持ちを大切にしている。「年をとっても元気な人って、人生での自分の役割を感じているんだと思います。私もそうでありたい」。笑いを届けるチャレンジは、これからも続く。



No.43 青空に映える穂谷の太陽の花

藤阪北町の松下美名子さん（34歳）が平成26年10月に穂谷で撮影。「毎年コスモス目当てで訪れている穂谷に、こんなに立派なひまわりが咲いているなんて驚きでした。青空に映える生き生きとした姿に元気をもらいました」。



枚方の魅力を再発見できる風景写真を大募集。街中もOK。▶応募 電子メールに住所・氏名（ペンネーム希望の場合はペンネームも）・年齢・電話番号・電子メールアドレス、写真の説明を書いて写真データを添付し広報課（✉kouhou@city.hirakata.osaka.jp）へ。

※応募作品は市公式のフェイスブックやInstagramで公開します。